

公共 2026 年度 出題の意図

リード文を読み、本文中の空欄や下線部に関連する設問に答える形式で出題した。設問は、語群から語句を選ぶ問題、正誤判定の問題、語句記述問題で構成した。公共で学習する単元から幅広い領域のリード文を示し、基本的な用語の知識と仕組みの理解に加え、現代社会の諸課題を思想・制度・歴史的経緯と関連づけて捉えているかを問うた。

第1問では、人間と社会をめぐる諸問題を題材として、青年期や諸思想に関するリード文を示した。フロイト・ベーコン・デカルトなど、西洋近代思想の基礎事項を確認し、カントの人格主義やヘーゲルの人倫、アーレントの「活動」の概念、ハーバーマスの対話による合意形成など、共同体や公共性をめぐる思想を扱い、ベネディクトの「恥の文化」、メディア・リテラシー、世界の諸宗教に関する理解も問うた。さらに、近年の日本の人口構成比やダイバーシティ経営などを通して、多文化共生と人口減少社会の現状に関する理解を確認した。

第2問では、民主主義の諸問題を題材として、アメリカ独立宣言・フランス人権宣言・国際人権規約を扱う文章と、日本国憲法前文の抜粋、国際連合に関する文章を示した。天賦人権論や権力の分立、社会契約説など近代民主主義の基礎となった思想についての理解を確認したうえで、アメリカの政治制度や日本の条約批准状況、日本国憲法の三大原理と国会の地位、違憲審査制度について問うた。さらに、ウクライナやガザ地区をめぐる安全保障理事会の機能不全、国際司法裁判所と国際刑事裁判所の差異を取り上げ、現代国際社会の課題への理解を確認した。

第3問では、経済の諸問題を扱った文章をリード文として示し、完全競争市場・市場の失敗・比較生産費説に関する文章、内閣府「月例経済報告」の抜粋、戦後の国際経済の年表を取り上げた。情報の非対称性、公共財、外部不経済といった経済学の基本的な概念や独占・寡占下の価格形成について理解しているかを確認し、リカードの比較生産費説や、租税の累進性、公債依存度の計算、日本銀行の金融政策について問うている。あわせて、ブレトン・ウッズ協定以降の国際経済の変遷を、ニクソン・ショック、スタグフレーション、欧州連合などと関連づけて捉えているかを確認した。

※各問いの詳細は、一般選抜A一日目の内容に基づいて記載しております。